

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 4 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730862

研究課題名(和文) インクルーシブ教育の展開に応じた通常教育教員養成システムの開発的研究

研究課題名(英文) A Study for the Construction of regular education teacher education system toward inclusive education

研究代表者

吉利 宗久 (YOSHITOSHI, MUNEHISA)

岡山大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：60346111

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インクルーシブ教育の推進に向けた教員養成機関におけるカリキュラム開発の動向と実際を捉え、今後の課題を明らかにすることを試みた。とくに、全米における通常教育教員養成制度の動きをふまえ、具体的な事例として州立ハワイ大学マノア校の同時履修プログラム(Dual Preparation Program)のカリキュラム内容を検討した。さらに、日米において通常教育教員に対する質問紙調査を行い、インクルーシブ教育実践に対する自己効力感の実態を探った。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to identify the success factors of curriculum toward inclusive education. First, I focus on the efforts pioneered by the United States on inclusive education and provide an overview of the national trend in addressing the special education skill development for the general education teachers. Additionally, as one of the models of teacher preparation program curriculum, information on Dual Preparation Program at the University of Hawaii Manoa is included. Second, teachers in the United States and Japan completed the Teacher Efficacy of Inclusive Practice (TEIP) survey to determine their confidence in using inclusive practices, collaboration and managing behavior. The results have implications for teacher preparation program.

研究分野：特別支援教育学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：インクルーシブ教育 カリキュラム 教員養成

## 1. 研究開始当初の背景

ノーマライゼーションの進展に伴い、インクルーシブ教育の思想と実践が世界的な潮流となっている。とりわけ、国連「障害者の権利条約」(第61回総会, 2006年12月)においても、インクルーシブな教育制度の確保を原則的方向性として位置づけられた。わが国でも、インクルーシブ教育の具現化に対する取り組みの進展が求められており、インクルーシブ教育の理念に即した特別支援教育を推進し、定着させるための学校体制の確立が強く求められている。

しかしながら、先行研究においてインクルーシブ教育の展開に対して、通常教育教員が障害のある子どもに対する専門的知識や技能の不足を感じており、指導・支援に消極的な態度を示すことも少なくないことが明らかにされている。また、通常学級に措置された障害のある子どもが障害のない子どもに受容されず、社会的・学業的にも期待された教育成果をあげることができないケースも報告されている。すなわち、通常教育の教員が新たに直面する教育課題に対して、自らの教育的役割や求められる能力について困惑している側面がみられる。換言すれば、教員養成段階における特別支援教育実践力の育成に資するシステムを確立し、その基盤となるカリキュラムの開発が必要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

こうしたインクルーシブ教育の国際的な展開を念頭に、通常教育教員に必要な基盤的なスキルを究明し、新たな現代的ニーズに対応するための教員養成カリキュラムの在り方を検討する。とりわけ、インクルーシブ教育を先駆的に進めてきた米国の経験を土台に、わが国における教員養成のシステムの在り方をカリキュラム開発の視点から主に以下の点について追究する。

1) わが国では教員免許制度における障害関係単位の位置づけと内容は改善過程にあると考えられるため、まず、多くの学校教員が特別支援教育に関して直面している学級経営や実際の指導における困難と、それらを踏まえて必要になる知識やスキルを明らかにする。

2) インクルーシブ教育に関する経験を有する米国における通常教育教員養成の仕組みの実際とその背景を探り、いかなる議論や工夫のなかで先駆的とされる取り組みが蓄積・活用されてきたのかについても注目する。

## 3. 研究の方法

インクルーシブ教育の導入に応じた教員

養成システムの構想には、各国の背景事情により模倣的な移入は困難と考えられる。ただし、効果的な教育実践を可能とする教員養成の力点と基盤的条件があると考えられる。そこで、インクルーシブ教育をめぐる国内の実践的課題とニーズについて調査研究を通して十分に捉える(研究1)。そこでは、教員養成の段階で修得しておくべき専門性の内容と方法の究明を念頭に、今日の教育現場においていかなるスキルが必要とされているのかを中心に分析する。

また、研究1より明らかになった視点と照らし合わせながら、改善の仕組みを構想するための手がかりとして米国の取り組みを参考としながら検討を進める(研究2)。とくに、米国の通常教育教員養成カリキュラムにおける障害に関連する内容の位置づけと運用方法の動向に注目する。さらに、教員養成機関における実際的なカリキュラムをとりあげ、その構成と特徴について分析を行う。究極的には、インクルーシブ教育に即した特別支援教育の基盤的専門性を捉え、わが国の教員養成をめぐる制約や条件をふまえ、最低限の知識・技能をより効果的に修得するためのカリキュラム要件について検討を行う。

## 4. 研究成果

本研究課題の主な成果と今後の展望は、以下の通りである。

まず、インクルーシブ教育に対する基盤的課題を明らかにするため、学校における特別支援教育の理解状況と改善課題について質問紙調査を行った。対象は、先行研究の動向をふまえて高校に焦点化し、校長(48名)、特別支援教育コーディネーター(68名)、保護者[PTA会長](46名)に対して5件法(11項目)による質問紙調査を実施した。結果、とくに各群の大多数は共通して教職員の意識向上の必要性に関する高い得点を示した。とくに保護者は、校長やコーディネーターよりも校内外の支援体制や情報の活用に関する低い得点を示し、多様な試験形態や評価方法の導入の必要性には高い得点を示した。

さらに、教育現場における状況を適切に把握するために、教員のインクルーシブ教育に対する自己効力感を調査した。高校の特別支援教育コーディネーター(59名)を対象に「インクルーシブ教育に対する教員効力感尺度」(TEIP)を実施した結果、インクルーシブ教育に対する高等学校教員の自己効力感は必ずしも高い水準にはなかった。とくにインクルーシブ教育に関する動向の理解、個々のニーズに対応するためのアセスメントや指導計画といった新たな教育課題の把握や支援方法に関する準備が十分ではないと感じられていた。こうしたスキルを中心に教員養成段階からの計画的で継続的な研修機会

が求められていることを指摘した。

加えて、インクルーシブ教育の展開に即した教員養成カリキュラムの開発のため、米国の取り組みに注目し、通常教育教員に対する特殊教育スキルの養成に関する全国的な動向を概観した。また、大学における具体的な教員養成カリキュラムの試みとして、州立ハワイ大学マノア校における同時履修プログラム(Dual preparation program)の基本的な内容について報告し、わが国における新たな教員養成システムの展開に向けた検討材料を提起した。

最後に、日米における質問紙による実態調査を実施し、わが国で示される問題が特徴的な性質であるのか、他国にも通底する課題であるのかについての検討を行った。インクルーシブ教育をめぐる家庭や学校外の専門家との協同的な活動が両国における共通的な課題として位置づけられていた。その一方、日本では、インクルーシブ教育の指導法の観点がとくに大きな課題として捉えられている実態が明らかとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1) 吉利 宗久(2014) インクルーシブ教育に対する高等学校教員の自己効力感 - 特別支援教育コーディネーターを対象とした質問紙調査の分析. 岡山大学教師教育開発センター紀要, 4, 1 - 5. 査読無

(online available at <http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/metadata/52283>)

2) 吉利 宗久・高橋 桐子(2013) インクルーシブ教育に対する教員養成カリキュラム開発の動向と実際 - ハワイ大学マノア校における同時履修プログラムを中心に. 岡山大学教師教育開発センター紀要, 3, 61 - 69. 査読無

(online available at <http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/journal/49489>)

3) 吉利 宗久・横内 理絵(2012) 高等学校の特別支援教育に対する理解と評価 - 校長・特別支援教育コーディネーター・保護者の実態調査. 発達障害研究(日本発達障害学会), 34, 78 - 85. 査読有

[学会発表](計2件)

1) 吉利 宗久・高橋 桐子・佐藤 公子・仲矢 明孝, インクルーシブ教育に対する教員の自

己効力感 - 日米比較に基づく予備的研究. 日本特殊教育学会第51回大会, 2013年8月30日(明星大学(東京)).

2) Kiriko Takahashi, Munehisa Yoshitoshi, Cecily Ornelles, Attitudes of Teachers Regarding Inclusion of Students With Disabilities in Japan and in Hawaii. 日本特殊教育学会第51回大会, 2013年8月31日(明星大学(東京)).

[図書](計1)

1) 吉利 宗久(2012) 『障害者法: アメリカ合衆国』(第 巻, 789 - 797) 他17項目(36頁分) 『障害百科事典』丸善出版B4判5巻(編集; 日本特殊教育学会)[訳本]

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

特記なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

吉利 宗久(YOSHITOSHI MUNEHISA)  
岡山大学大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号: 60346111

##### (2) 研究分担者 なし

研究者番号:

##### (3) 連携研究者(研究協力)

TAKAHASHI KIRIKO (H24~25)

University of Hawaii at Manoa ( Center on  
Disability Studies ) · LD Specialist, Project  
Coordinator  
研究者番号： なし